

議事録

会議名	令和7年度第2回久留米市子ども・子育て会議
日時	令和7年7月22日（火）19：00
場所	久留米市職員会館メルクス 3 階ホール
出席者	麻生委員、池田委員、上村委員、大西委員、椛島委員、國武委員、幸若委員、小松委員、佐藤委員（オンライン出席）、関委員、重永委員、田中委員、谷口委員、津村委員、中島委員、中村真弓委員（オンライン出席）、中村路子委員、中山委員、西野委員、早川委員、原田委員、日野委員、山下経男委員、山下裕史委員 24 名
欠席者	今村委員、中井委員 2 名
傍聴者	3 名
次第	1. 開会 2. 報告 （1）久留米市こども計画（素案）に対する意見募集（パブリック・コメント）の結果について 3. 議事 （1）久留米市こども計画（案）について 4. その他 （1）こども・若者ワークショップの実施について 5. 閉会
	1 開会 久留米市子ども・子育て会議条例第9条第2項の規定に基づき、会議成立
委員	2 報告 （1）久留米市こども計画（素案）に対する意見募集（パブリック・コメント）の結果について 〈資料1について事務局説明〉 〈質疑応答〉 市民周知の「市立小中学校・市立高等学校と連携した児童生徒・保護者への周知」について、特別支援学校は対象となっているのか。
事務局	校務支援システムによる一斉配信を活用しているが、対象に含まれているか学校側への確認ができていない状況である。
委員	校務支援システムであれば対象となっていると思うので記載してほしい。対象でないのであれば適切ではないと思う。

事務局	確認の上、対象であれば記載する方向で修正したい。
委員	3 議事 (1) 久留米市こども計画（案）について 〈資料2について事務局説明〉 〈質疑応答〉 2点ある。1点目は表紙についてである。地域で子育てを支えることを表現するのであれば、若い親子だけでなく、高齢者や障害のある人など多様な人が描かれている方がよい。また、精神的な不安を抱えながら子育てをしている保護者や、地域で子育てを支える高齢者の存在も表現できるとよいと感じた。 2点目は、資料2の7ページ「全てのこども・若者が夢や希望をもって成長できる」についてである。保育士を目指していた子どもが、成長するにつれて処遇などの現実を知り、夢を諦める例もある。孤立した子育てが増える中、保護者を支える教育者がゆとりを持って子どもに関われるよう、教育環境の整備にも積極的に取り組んでほしい。
事務局	表紙については、さまざまな立場から意見をいただくことを想定しており、いただいた意見を踏まえて再度検討したい。 また、教育者への支援については重要な視点であるが、本計画はこども・若者・子育て当事者を対象とした計画であるため、直接的な記載には限界がある。一方で、基本目標5では「子育てと仕事の両立の促進」を掲げており、ワーク・ライフ・バランスの推進を通じて、子育てを支える人の環境整備にも取り組んでいきたい。
委員	多様性を視覚的に表現することは重要であると考えてる。
委員	「こども」と「子ども」の表記が混在しているが、使い分けに違いがあるのか。
事務局	原則として、こども基本法に基づき「こども」表記を使用している。一方、法律名や組織名などの固有名詞については「子ども」表記を使用している。
委員	例えば76ページの「子どもと話す頻度」はどうか。
事務局	75ページからの福岡県の調査報告書を引用しているため、その表記を使用している可能性があるが、記載ミスの可能性も含めて確認したい。また、本日示した計画は答申案ではないが、今後冊子として使用するため、引き続き意見をいただきたい。

	4 その他 (1) こども・若者ワークショップの実施について 〈資料3について事務局説明〉 〈質疑応答〉
委員	昨年度は参加者がなかなか集まらず、その意見がどの程度反映されたのか疑問である。今年度もワークショップを実施する必要があるのか率直に感じている。
事務局	計画では、「こども・若者を対象としたワークショップ」を継続して実施することとしており、計画策定後も意見を聞きながら施策を進めていくため、今年度も引き続き実施したいと考えている。
委員	昨年度は、休みを増やしてほしいなど、こどもたちの率直な意見が出ていたが、計画には反映されていないように感じる。
事務局	ワークショップではさまざまな意見が出たが、すべてを反映できるものではない。計画策定後には、どの意見を反映し、反映できなかったものはその理由も含めて説明したい。意見表明や居場所づくりなどは計画へ反映している。
委員	夏休み中は居場所のないこどもも多い。ワークショップは昨年度のように自由なテーマで行うのか、それとも居場所づくりなどテーマを絞って実施するのか確認したい。
事務局	今年度は計画策定後の実施となるため、今後重点的に取り組むテーマを中心に実施したい。特に居場所づくりについては、昨年度よりさらに深く意見を聞きたいと考えている。
委員	ワークショップの実施に係る予算は確保されているのか。
事務局	令和7年度予算として確保しており、委託実施を予定している。現在、委託先と見積もりを調整している段階である。
委員	昨年度の事業費はどの程度だったのか。
事務局	昨年度は委託費が約 20 万円で、そのほか会場使用料などの経費がかかっている。
委員	学生ファシリテーターの導入は主体性を育む良い取組だと思う。一方で昨年度は募集期間が短く、高校生が参加しにくかった。今年度のスケジュールで十分対

	応できるのか。
事務局	学校の休暇期間中の実施を予定している。昨年度の反省を踏まえ、募集期間は1か月程度確保し、研修日程なども事前に示して参加しやすい環境を整えたい。
委員	募集方法はどのように考えているのか。
事務局	具体的には未定だが、昨年度同様、電子チラシやホームページ、学校の協力による校務支援システムなどを活用し、広く周知したい。
委員	ワークショップで子どもや若者の意見を聞き、計画や施策に反映させる趣旨は理解できるが、参加することもたちの意見だけで十分なのか気になる。本当に困っている子どもは相談やワークショップに参加しないことも多いため、不登校の居場所などへ出向いてインタビューを行うなど、多様な方法で意見を聞くことも必要ではないか。また、子どもが本音を話せる環境や、信頼できる人が聞き取る工夫も重要であり、そのような場で得られた声を施策に反映することも有効だと思う。
事務局	ワークショップだけでなく、多様な方法で意見を聞く場づくりが必要と考えている。いただいた意見も踏まえ、さまざまな人の声を反映できる手法を検討していきたい。
委員	ワークショップ以外にも、普段から子どもや地域の声を行政へ届けられる窓口はあるのか。地域づくりに主体的に関わりたい子どもたちを支える仕組みがあればよいと思う。
事務局	ワークショップは計画への反映を目的として実施するものである。行政では事業ごとに目的に応じて意見を聞いており、各担当課が必要に応じて連携して対応している。
委員	テーマごとの意見募集だけでなく、市民や子ども、保護者、教育関係者などが日頃から提案や意見を届けられる窓口があればよいと感じる。
事務局	行政は各担当課の所管に応じて連携しており、内容によっては関係課へつなぐこともできる。個別の内容に応じて対応していきたい。
委員	地域で活動する中で、主体的に活動したい子どもたちを行政へどうつなげればよいか気になり質問した。

委員	ワークショップは参加人数よりも、多様な参加機会が用意されることが重要である。昨年度も多様な意見が出ており、こどもの言葉をそのまま生かすことが大切だと感じた。また、昨年度は市長に意見を伝えたいという声もあったため、そのような機会も検討してほしい。
事務局	今後も実施を重ねながら、より良い形へ改善していきたい。
委員	市長が参加するなど、行政と直接話せることを打ち出せば、参加意欲の向上にもつながるのではないか。
事務局	いただいた意見を踏まえ、今後検討したい。
	5 閉会